



## 夏まつりの後

子供が主役・親も主役・先生も主役のオール松の実「夏まつり」が終わりました。

主役たちの総てを盛り上げて下さった、松の実後援会の会長様、副会長様、以下役員の皆様に改めて御礼申し上げます。

各会場の企画からご準備、そして主役No.1の子どもたちは今日になっても「ドラえもん」と、またクイズやりた〜い♡」などと楽しんでくれています。

本当にありがとうございます。

後援会には「夏まつり」の他にも子どもたちのために「松の実文庫」の充実にお力を頂戴しています。

この春、保護者皆様からおすめいただいた29冊の絵本を含めて、松の実文庫には815冊の絵本がそろいました。

子どもには、どの子ももれなくひとりひとり思いやり深く、心豊かに育って欲しいという共通の願いがあります。その願いを叶えるひとつの方法として親と子、保育者と子どもが直にふれあい、且つ、心豊かに育つ優れた力にふれる絵本と出会えるように、40年前に保護者皆様からのご寄附を得て始めたのが「松の実文庫」でした。

子どもは絵本を読んでもらいながら絵本を見ています。

美しい絵は、感性を豊かにします。

また、優れた絵本は美しい日本語で綴られています。

お父さんお母さんや保育者のなまの声で読まれる物語の楽しさにのせて、言葉が育まれていきます。

ご存知のように言葉は、考える、思う、伝え合う、そのための手段です。

言葉が豊かになることは、考え方や思い・思いやりが豊かになることです。

言葉の力というのは、聞く・話す・読む・書くという順序性に添って発達するのです。つまり最も早くに発達するのが聞く力です。静かに聞くことができれば―情感を豊かにし、深い内容を理解できるようになっていきます。

子どもに今、語っておきたいと願っている愛や正義・友情・勇気・やさしさ・喜びや悲しみへの共感・支え合って生きること・働くことの大切さを、絵本の力を借りて伝えていきたいと思っています。

絵本を読んでもらうその時間は、文字通り身も心も親に抱かれ、丸ごとの愛を感じる大切な時間です。

心の底へ届く愛を十分に受けて育った子どもは自分を愛し、他人を愛し、尊ぶことができるようになります。

今、子どもたちは週1回、自分で選んだ絵本を借りて帰りますが、どうぞ各ご家庭で、眠りに入る前のほんのひと時でも、絵本の力を借りて愛を伝える時間にしていただければ―と、これが夏まつりの後の願いです。